

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの個性・可能性の開発と伸長が図れる教育課程を実践し、自立した個人として必要な社会人基礎力を身につけさせる。 ②「学ぶ」楽しさを意識した不断の授業改善に取り組む。	①クリエイティブスクールを見据えた教育課程を検討する。 ②「朝学習」の効果的活用や組織的な授業改善により、「やればできる」につながる学習環境づくりに取り組む。	①組織的な検討により教育課程を決定する。 ②各教科において生徒に身につけさせたい事柄を整理して、教科全体で各学期に1回以上の相互授業観察を行う。 ②学習が遅れがちな生徒のフォローを学年・教科一体となって行う。	①クリエイティブスクールを見据えた教育課程が決定できたか。 ②各教科において授業観察と意見交換会を年3回以上実施できたか。 ②学習が遅れがちな生徒の補習ができたか。各教科において教科目標を達成できたか。	①クリエイティブスクール用の教育課程を決定した。 ②授業観察回数は教科によってばらつきがある。 ②各学年で学習フォローをおこなった。	①年度ごとに教育課程の検証を継続していく。 ②各教科において今後も相互授業観察と意見交換をする機会を設ける。 ②教科目標の確認とともに目標達成に向けた授業改善を促す。	・学習サポートなどに外部の人材を取り入れる工夫をすることが求められる。 ・意欲を見る選抜は評価できるが、生徒の学力差が拡大することも予想される。 ・クリエイティブスクールの取組として朝読書などは効果が期待できるのではないかな。	①クリエイティブスクールとしての教育課程を整えたが、生徒の実態を踏まえた検証が必要である。 ②授業観察について一定の回数を実施できたが、教員による差が見られた。 ②学年・教科の連携により学習フォローを行ってきたが、生徒の学力差が拡大しており、学び直しの必要な生徒も増加している。	①生徒の学力を調査しながら効果的な教育課程の改善を行う。 ②アクティブ・ラーニングとユニバーサルデザイン化を意識した授業改善を目標として、研修会を実施する。 ③学習が遅れがちな生徒、学び直しを必要とする生徒等への補習システムの構築を推進する。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整える。	①全職員による一斉指導を展開し、生徒に基本的生活習慣を身につけさせる。 ②SCやSSWとの連携を強化し、日常的な生徒情報の共有化を図ることで、全職員による教育相談・チーム支援に取り組む。	①一斉指導と日常の指導により生徒の自立につながる基本的生活習慣の定着を図る。 ①部活動や行事、ボランティア活動等への参加を通して課題解決、コミュニケーション能力等の育成を図り、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ②コア会議を中心とした組織的な教育相談体制を構築する。	①一斉指導と日常の指導により生徒の自立につながる基本的生活習慣の定着を図る。 ①部活動、ボランティア活動への参加率は増加したか。 ②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との効果的な連携を図ることができたか。	①全職員による一斉指導を年5回実施し、HRや授業、行事等の場面も活用し、頭髪・服装指導を実施した。 ①部活動加入率は運動系で25.0%、文化系20.0%で微増であった。文化祭・スポーツ大会、ボランティア活動への積極的参加を促すことはできた。 ②コア会議を充足し、教育相談体制の再構築を行った。	①服装・頭髪指導では継続的指導が必要であり、保護者との連携強化に努める。 ①部活動加入率を高めるため、新入生への働きかけを強化する。部活動活性化を新校に向けた課題として位置づけた。 ②コア会議を中心とした教育相談体制を整備し、SCやSSWとの連携による支援体制を強化する。	・クリエイティブスクールとしての入学生と在生との違いが予想されるので、体制作りが求められる。 ・精神面に課題を抱えている生徒や家庭環境が複雑な生徒が増えているとのことであり、生徒の話を聞く取組はひょうかできる。 ・社会に出て貢献できるかが重要であることを生徒に伝えることが必要である。	①全職員による一斉指導を実施し、保護者との連携も推進したが、継続的な指導が不可欠である。 ①部活動加入率を高めることはできなかったが、地域との連携によりボランティア活動への参加は増やすことができた。 ②コア会議を組織して教育相談体制の強化を図ったが、情報の共有や個別の支援において課題が残った。	①一斉指導を継続させるとともに、キャリア教育とも関連付けて社会人基礎力の向上に向けた生徒の意識づけを進める。 ①仮入部期間の設定などにより部活動加入率を向上させる。地域との連携を一層強化し、ボランティア機会を増加させる。 ②SC・SSW・SCCや外部機関との連携を深め、教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制により全職員一体で生徒支援にあたる。
3 進路指導・支援	自立した個人として自己のキャリア意識を高め、社会と関わり貢献できる生徒を育成する。	①「総合的な学習の時間」を中心とした体系的なキャリア教育実践プログラムにより生徒のキャリア意識を高める。 ②基礎力診断テストや進路研究会の効果的な活用について検討・実践する。	①「総合的な学習の時間」を計画的に使い、学年進行に合わせた効果的な進路ガイダンスを実施する。 ①仕事の学び場や看護体験等への参加を促進する。 ②基礎力診断テストや進路適性検査の結果を効果的に用いた支援体制を構築する。 ②進路研究会や保護者面談を通して、保護者と連携した支援体制を構築する。	①各学年に必要なガイダンスが実施できたか。 ①キャリア体験への参加者を増やすことができたか。 ②基礎力診断テストや適性検査等のアセスメント結果を活かした科目選択や進路指導を実施することができたか。 ②保護者と連携して、生徒の進路決定に向けた取り組みができたか。	①年間計画により進路ガイダンスを実施した。 ①外部講師を招いたキャリア体験講座や公務員講座を校内実施し、参加者を増やした。 ②適性検査等のアセスメント結果をもとに総合的な学習の時間を活用し、選択科目決定に役立てることができた。 ②4・11・3月に保護者進路研究会を実施し、情	①新校生徒向けのガイダンス計画を策定する。 ①公務員講座、看護医療系講座等で外部機関との連携を図る。 ②適性検査等で得られたアセスメント結果の効果的利用を促進する。 ②外部機関等と連携したキャリア研究会等を効率的に実施する。キャリア支援を意識した三者面談を計画する。	・今後も進路希望の多様化に向けた対応が重要である。 ・外部講師を積極的に活用するとよい。今後も学校からの要望に応じて可能な限り協力していく。 ・卒業生による講話なども計画的に実施していくとよい。	①「総合的な学習の時間」を柱としたキャリアプログラムを実践し、外部講師等の協力を得てガイダンスや講習会を実施できた。自立した個人として必要な社会実践力のある生徒の育成が課題である。 ②適性検査のアセスメントを活用することができたが、基礎力診断テストについては効果的な指導に十分結びつけられなかった。 ②年3回実施した保護者進路研究会により、進路選択に向け	①3年間の体系的なキャリアプログラムを推進する。 ①1年生では職業体験を中心とした地域社会と連携したキャリアプログラムを再構築する。 ②基礎力診断テストの効果的活用に向けた研修会を実施する。 ②進路研究会の内容について検討を行い、参加率の向上を図る。

						報提供を行った。また、保護者面談を活用し、進路決定に向けた情報交換を実施した。			た情報提供ができたが、参加率の向上が求められる。	
4	地域等との協働	保護者や地域との協働による学校づくりを推進し、人と社会と未来につながる開かれた学校づくりを推進する。	<p>①学校説明会やHPの活用による情報発信機会の拡大に取り組む。</p> <p>②外部機関との連携を強化し、学校運営協議会制度の導入に向けた体制づくりを行う。</p>	<p>①新校の理解に役立てるため、説明機会を数多く設定する他、HP、ツイッター、まち comi メール等様々な媒体を活用して定期的に情報発信を行う。</p> <p>②外部機関を活用し、ボランティア活動や教育活動の充実を図る。</p>	<p>①学校説明会を始め、説明機会を多く設定できたか。</p> <p>①様々な媒体を活用して、定期的に効果的な情報発信を行えたか。</p> <p>②新たに連携できる外部機関を開拓できたか。</p> <p>②従来からある外部機関との連携を充実させることができたか。</p>	<p>①昨年度も実施した学校単独2回の説明会に加え、中学校教員対象説明会を2回、個別相談を6回実施した。</p> <p>①ツイッター等を積極活用し、日々の情報発信に努めた。</p> <p>②ボランティア等を通じ幼稚園や福祉施設との連携を深めるとともに、大和法人会との連携も図った。</p> <p>②学校運営協議会制度の要綱を作成し、29年度からの導入を図った。</p>	<p>①新校の理解に役立てるため、広報体系を見直し、効果的な説明会等の構築を図るとともに、部活動や行事等の効果的な情報発信の仕組みを整備する必要がある。</p> <p>①発信する情報の質を高め、継続性を担保する必要がある。</p> <p>②外部機関との発展的な関係作りに向けた人材育成が必要である。</p> <p>②29年度からの制度運用に向けてグループ業務の見直しと新たな校内組織の構築を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会については中学へ出向くものも含めて継続的に行うとよい。 地域と溶け込む意味でもボランティア活動はよい取組である。地域の行事などにも参加していくとよい。 	<p>①学校説明会や新たな個別相談会に加え、中学校教員対象説明会などを通してクリエイティブスクールとしての情報発信に努めることができた。より多くの中学に対して情報発信することが求められる。</p> <p>①新たにツイッターによる情報発信を行ったが情報の質と量を維持することが課題である。</p> <p>②外部機関等との連携を深めることができた。今後も連携の幅を広げ、学校運営に活かしていきたい。</p>	<p>①学校説明会や中学校訪問を充実させ、中学教員や中学生への情報提供機会を拡大させる。</p> <p>①HP・ツイッター等を効果的に活用するため、組織全体で情報発信する仕組みを検討する。</p> <p>②学校運営協議会制度を活用し、地域コミュニティとの連携を強めることで、新たなキャリアプログラムの実践やボランティア活動の活性化を図る。</p>
5	学校管理 学校運営	クリエイティブスクールに向けた準備と在校生の支援に全職員が一体となって取り組む組織づくりを行う。	<p>①新校に向けた課題の整理と解決への手立てに全職員で取り組み、組織の一体感を高める。</p> <p>②新校の取組を支える教育環境を整備する。</p> <p>③不祥事・事故防止研修会の内容について一層の改善を図る。</p>	<p>①組織的な取組を通して職員の一体感を図る。</p> <p>②新校に向けた取組を理解し、必要な教育環境整備を図る。</p> <p>③課題の適切な把握と共通理解により、不祥事・事故防止に組織的に取り組む。</p>	<p>①新校準備に組織的に取り組むことができたか。</p> <p>②安全、安心を支える教育環境整備を行うことができたか。</p> <p>②新校の教育内容を踏まえた環境整備を行うことができたか。</p> <p>③組織的な取組により不祥事・事故防止が達成できたか。</p>	<p>①茶話会等で職員の共通理解を深めた。</p> <p>②新校の教育内容を踏まえた環境整備のための予算を請求した。</p> <p>②H29からの教育課程を踏まえ、教室配置等に計画的に取り組むことができた。</p>	<p>①従来のシステムとクリエイティブシステムの効果的な融合を図る必要がある。</p> <p>②新校予算の効果的なかつ適切な配当と執行に努める必要がある。</p> <p>②新校として、年度当初から環境整備が図られているような工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係作りを進めることで学習面でもよい結果がもたらされる例もある。みんなで何かを成し遂げるといふ体験を作り上げるとよい。 	<p>①プロジェクトを中心として新校準備に取り組むことができたが、学校全体が一体感を持って実践していくことが重要である。</p> <p>②施設設備の改修に向けた検討を行った。ユニバーサルデザイン等を意識した授業や施設の整備が必要である。</p> <p>③不祥事・事故防止に係る研修等を積み重ねたが、引き続き全職員による取組が必要である。</p>	<p>①クリエイティブスクールの教育活動を実践し、プロジェクトを中心として検証と改善に向けた一体感のある取組を組織する。</p> <p>①学校運営協議会を活用し、地域と一体となった学校運営体制を構築する。</p> <p>②クリエイティブスクールとしての教育環境整備に取り組む。</p> <p>③不祥事・事故防止に係る研修等を年10回以上実施する。</p>